

今、熊本かがやきの森支援学校では・・・
(本校舎作品展示について)

このかがやきの森支援学校本校舎は、建設される敷地が細長い形状であったことから、ブーツ型の校舎の位置になっています。また、平屋で廊下が長く、車椅子がゆったりと離合できる広さとなっているとともに、ストレッチャーに寝ていたり、車椅子のリクライニングを倒していたりした場合、自ずと視線が上を向いてしまう児童生徒も在籍しているために、廊下を通る際に眩しくないよう、ダウンライトの位置を壁側にずらして設置されています。その為、廊下の壁面に児童生徒の作品を飾ると、美術館のようにとっても素敵に鑑賞することができます。また、学校の施設設備の良さは言うまでもありませんが、何より、児童生徒がピュアな心で一生懸命に描いた作品は、まっすぐに心に響き、疲れた心や身体に元気を与えてくれるような気がしています。

今回は、管理棟職員室の前の「10周年記念品デザイン一覧」や各学部棟前廊下に掲示してある作品を無作為に紹介いたします。

令和6年6月11日

熊本かがやきの森支援学校長

富永 佐世子

